

2025年までに日本は破綻するかも知れない—政治の世界へ—

第1期OB 井川 倫士

こんにちは。毎度おなじみ1期の問題児、井川です。また1年の始まりにゼミの寄稿文を書いています。今年も締切りに間に合いませんでした。申し訳ないです…。さて今回は、2013年にした5つの宣言の振り返り、今年の日論見、そして自分への戒めとメッセージを送りたいと思います。

◆5つの宣言がこの1年で守られたのかどうか

- ① 結婚生活：結婚式での新郎挨拶通り、たくさん会話し感謝の気持ちを大切に生活していきます。
⇒★結婚生活：今でも寝る前の布団の中で妻に「ありがとう」と伝えてから眠ります。
- ② 子育て：子供の清らかな部分を伸ばす。「子供は社会が育てる」をモットーに直接経験を積める環境を用意し、自分の得意なこと、好きなこと、やりたいこと（夢）を見つけ伸ばしてもらう。
⇒★子育て：長女の侑里は想像以上に我儘に育っています。そして私よりも賢く器用なようです。
- ③ 将来のミッション：実家の茨城県銚田市に1年半後にUターンし、“犯人捜し”を止めて自らがリーダーとして地域貢献、地域活性化に一生身を投じます。
⇒★茨城のミッション：2014年10月の35歳誕生日に茨城県銚田市の実家に引っ越しました。予定よりも遅くなりましたが…。これから茨城と東京の二拠点で活動します。両方の良いところ取りで、これからのライフスタイルの実践者となります。
- ④ 仕事の行く先：FPとして独立し、並行して月3万円ビジネスで経済的独立を果たす。
⇒★仕事の行き先：独立したファイナンシャル・プランニングの会社の業績は、正直まだまだです。月3万円ビジネスはようやく本格始動し、昨年2014年には念願だった“ピザ窯”を自分たちで作るピザパーティを開催。いよいよ5月には、田植えツアーを開催予定です。
- ⑤ 我々の夢：お互いに自分の道を切り開いていきましょう！
⇒★我々の夢：2015年6月に市議会議員の選挙があります。兄とまだ話をしていませんが、OKが出れば出馬します。可能であれば2年後には市長として地元茨城県銚田市の“地域の皆と宝探し”をして生きていきたい。（柳川、大騒ぎしないように。まだ隠しておきたいので）



著者が実家に作ったピザ窯「Earth Oven」

振り返ってみると1歩1歩進んでいるようです。これからも少しずつ歩んでいきます。

◆今年が目論見

先ほども少し触れましたが、柳川、大騒ぎしないように。まだ隠しておきたいので 笑。

さて今年2015年は統一地方選挙の年。2年に1度は選挙の多い年ですが、平成の大合併もあったため今年はかなり数の数に上ります。地元の茨城県銚田市の場合は、2015年6月に市議会議員の選挙予定。ここで出馬したいと考えています。2年後には市長選に出ることになるかも知れません。

良い機会なので、選挙資金がどの程度必要で、当選可能性がどの程度あるのかを一般論も交えながら話をしたいと思います。理由は、議員になることはそれほど難しいことではないと知ってもらうためです。

地元銚田市は、農業産出額で市町村別日本一の市です。けれども人口は50,000人ぐらい。有権者数は42,000人、前回の投票者数は26,000人弱で投票率は61.7%です。議員定数は3町村合併もあったため22から20に減っての初めての選挙です。前回選挙の当選者最低得票数は789票で、20番目でも804票となっています。トップが約2,000票ですからこの程度です。

「へえ～そんなもんなんだあ」と思った人、まだまだこれからです。現職の市議会議員の年齢は、全ての人々が50歳オーバー。つまり、20代、30代、40代議員はゼロです。これは、銚田市特有のものではありません。東京都心部を除いた人口10万人以下の市町村では、ありがちな状態なのです。ハッキリ言います。普通のまともな20代、30代が選挙に出れば、当選する時代なのです。「このままではまずい」「誰か若い人が出てくれないか」と思っている人は多い。けれども、優秀な人はかなりの数が都心部に出て地元に住みません。地元に残る優秀な人も、しがらみから選挙に出られる状態ではありません。まずは自分の住んでいる自治体や出身の自治体を調べてみてください。意外な結果が出てきますよ。

「そうは言っても選挙資金が…」「地盤、看板、カバンでしょ」って、それは国政選挙の場合です。地元自治体の選挙レベルとは話が違います。ましてや選挙に出馬する供託金は、市議会議員の場合（非政令市なら）30万円です。没収されるのは、有効得票総数÷議員定数÷10に満たない得票数の場合。私の市の場合、最大でも42,000人÷20÷10=210票です。投票率から考えれば、130票です。前回の選挙は24人が出馬して、ビリも672票を得票しました。因みに町村議員選挙は、供託金がありません。

またポスターや選挙カーにも公費から補助が出ます。ですから普通の人は200万円もあれば選挙に出ることが可能です。私が通っているNPO法人一新塾の仲間で、東京都のとある市から出馬し当選した人は50万円の選挙費用でした。ですから、1,000万円など掛けている人は、よっぽどアホな人だと言えます。因みに国政選挙でも民主党から出たある候補は、その秘書だった人の話では2,000万円程度だったようです（党からの補助もあります）。

ですから、噂話に惑わされないでください。今ではインターネットもあり、クラウドファンディングもある時代ですから、昔とは話が違ってきている訳です。

では、私が実際に議員になって何をしたいのか。これ気になりますかね。ここまで読んだ人なら、気に

してくれているのでしょうか。これについては…来年の寄稿文で書こうと思います。長くなりすぎるので。

2025年までに日本は破綻するかも知れない理由も、次回に持ち越して。単なる日本国債バブルの崩壊ではありません。

◆自分への戒めとメッセージ

近年起こってきている文明のパラダイムシフト（斬新なアイディアにより時代が大きく動くこと）は、流行の本でも見て取れるような気がします。書店へ行くと「地方」に関する本が多数出版され、テレビでも特集が組まれるほどです。これはアベノミクスの一環としての「地方創成」政策の影響もあるでしょう。しかし3.11の地震から私の周りでも大企業を退職して起業する方や、実家の田舎に帰る決断をする方が増えていて、これから大きなうねりとなっていきそうな気配がします。

私は慶應生らしく時代の最先端を走っています 笑。

新しい時代には仮説を立て検証する能力を持ち、主体的に人生のハンドルを握ることが重要となってくるでしょう。つまり仮説検証や主体的な学びを实践する小野ゼミ生にとって活躍の好機と言えます。

しかしいつの時代でも新しいことをする時は、年配者からの温かいアドバイスにどう対処していくのかという課題が浮かんできます。なぜならそのアドバイスの大半が、間違っていることが多いからです。私がピザ窯を作るときだけでも相当なものでしたよ 笑。ではなぜそうなるのでしょうか。いくつか仮説が浮かびますが大きくは次の3点でしょう。

仮説1：時代が違うので今の時代にマッチしないから。

仮説2：噂話が独り歩きしていて、実際にその人が体験、経験したことではないから。

仮説3：そもそも噂話が、ある一定の力のある人にとって都合の良いように操作されているから。

つまりゼミの先輩のアドバイスも自分の料簡で判断すべきだということです。やはり“自力き力”が必要な時代なのかも知れません。この文章も眉唾ということですが、まあお互いにマイペースに自分の道を切り開いていきましょう！

“ふぁいと”



第1回ピザパーティの様子